

(参考資料) 令和3年度 主要施策の成果に関する報告書 主要事業の前年度比較等

【営業戦略部門】

(単位 千円)

No	事業名 (担当課)	R2決算額 A	R3決算額 B	差引額 B-A	主な増減理由	事業の成果, 今後の課題	参照ページ数
1	宿泊施設立地促進事業 (観光物産課)	97,590	358	△97,232	宿泊施設の事業認定件数の減による補助金の減 【事業認定件数】 R2: 1件、R3: 0件 △ 97,590	(事業の成果) 新たに補助対象事業に観光施設を追加し、本県への進出に興味を示す民間事業者58社に営業活動を行うことができた。 (今後の課題) コロナ禍の影響により、ホテル建設等の大規模な投資を控える傾向にある一方で、グランピング事業や、キャンプ等に併設した観光施設への投資意向は高いため、本県への誘致を図り、宿泊観光の促進につなげていく必要がある。	R3: 138 R2: 142
2	観光消費額拡大支援事業 (観光物産課)	-	42,267	42,267	観光消費の拡大に向けた事業費の増 (R 3 新規) 42,267	(事業の成果) 飲食・土産・体験等における消費機会の創出を図るためのコンテンツを作成し、観光消費の充実を図ることができた。 (今後の課題) 作成したコンテンツ等を活用し、観光消費の増加に向けた取組を行う必要がある。	R3: 138 R2: -
3	いば旅あんしん割事業 ※県内宿泊促進事業含む (観光物産課)	112,283	860,891	748,608	県内旅行割引支援の実施期間の拡大等による事業費の増 748,608	(事業の成果) 令和3年度は約10万人の利用があり、コロナ禍で落ち込む観光需要の下支えとなった。 (今後の課題) コロナ禍で落ち込んだ観光需要の早期回復に取り組む必要がある。	R3: 138 R2: 143

No	事業名 (担当課)	R2決算額 A	R3決算額 B	差引額 B-A	主な増減理由	事業の成果, 今後の課題	参照ページ数
4	宿泊事業者感染対策 支援事業 (観光物産課)	-	537,599	537,599	県内宿泊施設を対象とした、感 染症対策に資する物品の購入等 に対する補助金の増 (R3新規) 537,599	(事業の成果) 県内313の宿泊施設の感染対策の向上や、 コロナ後も見据えた前向きな設備の整備 等につながった。 (今後の課題) コロナ禍で落ち込んだ観光需要の早期回 復に取り組む必要がある。	R3: 138 R2: -
5	茨城まるごとお取り 寄せ事業 (観光物産課)	-	177,438	177,438	県産品販売促進キャンペーンの 実施による増 (R3新規) 177,438	(事業の成果) 商品の総売上が約1.3億円となり、コロナ 禍で停滞した物販事業者の商品の販売促 進につながった。また、本県名産品や特 産品の認知度向上にも寄与した。 (今後の課題) 県内物産事業者の販売環境は依然として 厳しい状況にあり、今後も物産振興に係 る定期的な販売促進や情報発信を継続す る必要がある。	R3: 139 R2: -
6	キャンプ場利用環境 レベルアップ支援事 業 (観光物産課)	-	23,625	23,625	公設キャンプ場 (公設民営キャ ンプ場含む) を対象としたサニ タリー設備等の整備・改修に対 する補助金の増 (R2→R3繰越) 23,625	(事業の成果) 多様化するニーズに対応するため、県内 15施設の公設キャンプ場が整備を行い、 利用環境の向上につながった。 (今後の課題) 継続した誘客を行うためには、ハード整 備に加えて、他とは差別化されたソフト 面での取組が必要である。	R3: 139 R2: -

No	事業名 (担当課)	R2決算額 A	R3決算額 B	差引額 B-A	主な増減理由	事業の成果, 今後の課題	参照ページ数
7	フラワーパーク振興 事業 (観光物産課)	175	31,392	31,217	工程の都合でリニューアルオープンまでに対応しきれなかった修繕工事等の増 31,217	(事業の成果) 施設の繁忙期等を避け計画的に工事を完了させ、老朽施設の改善が図られた。 (今後の課題) フラワーパークが本県の観光拠点となるよう、国内外に積極的にPRしていく必要がある。	R3 : 139 R2 : -
8	観光施設管理 (営業企画課)	7,947	102,405	94,458	大洗マリンタワー非常用自家発電機更新工事(明許)に伴う増 71,126 上記に係る発電機賃借料 17,448	(事業の成果) 県有施設の維持・修繕工事等を実施し、利用者の安全確保と良好な環境の整備が図られた。 (今後の課題) 県有施設の維持管理に伴う修繕工事等を計画的に実施する必要がある。	R3 : 139 R2 : 143
9	ビジット茨城ネクスト誘客促進事業 (国際観光課)	108,479	151,387 (57,009)	42,908	滞在型旅行商品開発、デジタルマーケティング、海外旅行サイトへの掲載支援やオンラインツアー等旅のデジタル化に係る事業等の増 44,374	(事業の成果) 滞在型旅行商品の開発やオンライン商談会の実施等により、コロナ後の訪日需要を本県に取り込む準備を整えることができた。 (今後の課題) 新型コロナウイルス感染症等の状況を見極めながら、インバウンド需要の早期回復に取り組む必要がある。	R3 : 140 R2 : -
10	茨城インバウンド推進体制整備事業 (国際観光課)		(94,378)		※ R2「ビジットいばらき・海外誘客プロモーション事業」 → R3「ビジット茨城ネクスト誘客促進事業」「茨城インバウンド推進体制整備事業」に組替	(事業の成果) デジタルマーケティング等の情報発信や受入環境整備により、認知度向上や訪問意欲の喚起が図られた。 (今後の課題) 新型コロナウイルス感染症等の状況を見極めながら、インバウンド需要の早期回復に取り組む必要がある。	R3 : 140 R2 : 144・145

No	事業名 (担当課)	R2決算額 A	R3決算額 B	差引額 B-A	主な増減理由	事業の成果, 今後の課題	参照ページ数
11	いばらき農林水産物 ネクステージ展開強 化事業 (販売流通課)	-	52,394	52,394	栗、栗加工品のブランド化に係 る委託等の増(R3新規) 18,728 高級店での取扱拡大に係る委託 等の増(R3新規) 33,666	(事業の成果) 飯沼栗など県産栗の品質が高く評価さ れ、高級果実専門店である京橋千疋屋や 高級飲食店等での新規取引につながっ た。 また、京橋千疋屋でプレミアムクイン シーメロンの品質が評価され、新規取引 につながった。 (今後の課題) 重点品目について、メディア露出や高級 店を中心とした戦略的な営業活動等を通 じてブランド確立を図る。	R3:142・143 R2:-
12	いばらきの農林水産 物イメージアップ事 業 (販売流通課)	64,379	48,714	△15,665	百貨店フェア、首都圏料理店 フェアの開催に係る委託等の減 △12,177	(事業の成果) 県内に限らず、首都圏及び関西・北海道 でのフェア等の実施により、県外の消費 者に県産農林水産物の認知度向上及びイ メージアップを図ることができた。 (今後の課題) 県産農林水産物の認知度及びイメージ アップ向上のため、引き続き、県内外の 消費者に対して営業活動及び情報発信を 図る。	R3:143・144 R2:148
13	県政情報紙発行 (営業企画課)	150,048	136,419	△13,629	県広報紙「ひばり」の新聞折込 部数減に伴う発行部数の減 △12,988 R2発行部数:96万部(R2.5~ R2.8)、94万部(R2.9~R3.4) R3発行部数:94万部(R3.5~ R3.10)、90万部(R3.11~R4.4)	(事業の成果) 県広報紙「ひばり」を月1回発行。県内 世帯への新聞折込や公共機関、スーパー 等への配布の他、県HPやSNS等のイン ターネットを活用し、県政情報を広く 発信することができた。 (今後の課題) 新聞折込部数の減少へ対応するため、S NS等インターネットによる配信を充 実、かつ効果的に行っていく必要がある。	R3:146 R2:132

No	事業名 (担当課)	R2決算額 A	R3決算額 B	差引額 B-A	主な増減理由	事業の成果, 今後の課題	参照ページ数
14	いばらきの魅力発信 事業 (営業企画課・プロ モーションチーム)	465,329	486,612	21,283	オンラインストアの拡充等によ るいばらきアンテナショップ運 営事業の増 12,059 メディア取材向けの県産品提供 の拡充等に伴うパブリシティ活 動強化事業の増 8,916	(事業の成果) 各種取組により、令和3年度広告換算額 約158億円、掲載件数1,680件のメディア 露出。 (今後の課題) 本県への観光誘客や県産品購入を促進し ていくため、引き続き様々な媒体・手法 で本県の魅力や優位性について国内外に 戦略的に発信していく。	R3: 146・147 R2: 132・133
15	いばらきグローバル ビジネス推進事業 【中小企業向け】 (グローバルビジネ ス支援チーム)	134,426	111,454	△22,972	コロナ禍による海外展示会の中 止等による委託費の減 △3,678 コロナ禍による海外派遣職員の 営業活動費の減及び事業見直し 等による負担金の減。 △18,797	(事業の成果) W e b 商談などオンラインを活用した マッチング機会を創出することで、県支 援事業による成約件数が増加 (R2: 1,100件→R3: 約2,900件) (今後の課題) 成約件数は増えたものの、成約単価 (R2: 801千円→R3: 963千円)の伸びが低 いことから、大手小売店等における商品 の定番化など大口・継続取引につながる 取組が必要。	R3: 149 R2: 137
16	農産物海外市場開拓 チャレンジ事業 (農産物輸出促進 チーム)	-	9,633	9,633	かんしょ及びコメの海外プロモ ーション等の実施による増 (R3新規) 9,633	(事業の成果) 米国等の新市場開拓に取り組んだ結果、 農産物輸出額が対前年比132%に拡大し た。 (今後の課題) 販路の定着・拡大を図るとともに、本県 農産物の付加価値を高め、取引価格の向 上を図る。	R3: 151 R2: -

No	事業名 (担当課)	R2決算額 A	R3決算額 B	差引額 B-A	主な増減理由	事業の成果, 今後の課題	参照ページ数
17	食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備事業 (農産物輸出促進チーム)	177,031	114,912	△62,119	応募事業者数が前年度を下回ったことによる減 △62,119	(事業の成果) 輸出先国の市場変化に対応した施設・機器等の整備への支援を3社に対して実施。 (今後の課題) 整備した機器等を活用した県産農林水産物・食品の輸出拡大を図る。	R3: 151 R2: 139
18	南米経済交流推進事業 (国際渉外チーム)	-	4,674	4,674	南米における県産品のプロモーション事業の増 (R3新規) 4,674	(事業の成果) ブラジルにおいて17品目の県産品プロモーションを実施し、うち2品目のオンライン商談につなげることができた。 (今後の課題) 現地ニーズを踏まえながら、引き続きブラジルへの輸出を希望する事業者の開拓に努め、販売促進を図っていく。	R3: 153 R2: -
19	空港関連施設運営事業 (空港対策課)	158,915	240,607	81,692	外周道路舗装補修工事費の増 (R2→R3繰越) 8,569 給油施設燃料タンク液面計更新工事費の増 (R2→R3繰越) 14,429 給油車両整備事業費の増 (R2→R3繰越) 58,300	(事業の成果) 茨城空港駐車場外周道路の一部に発生していたクラックを舗装補修し、通行車両の安全を確保した。 燃料タンク液面計を更新し、夜間における燃料受入体制を整備した。 また、路線の運航再開に必要となる給油車両を整備した。 これらにより路線拡大に必要となる給油体制を強化した。 (今後の課題) 新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線(国際線)の運航再開及び旅客需要の早期回復を図る。	R3: 153 R2: 146

No	事業名 (担当課)	R2決算額 A	R3決算額 B	差引額 B-A	主な増減理由	事業の成果, 今後の課題	参照ページ数
20	就航対策事業 (空港対策課)	132,969	109,379	△23,590	国際線運休による就航プロモーション費用等の減 △9,121 新型コロナウイルス感染症対応(水際対策)事業費の減 △12,815	(事業の成果) 国際線については、全便が運休となったが、関係機関との調整に努め、定期便各路線を維持した。 国内線についても、一部減便・運休が生じたものの、定期便4路線を維持するとともに、神戸便は1日2往復から3往復へ増便となった。 (今後の課題) 新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線(国際線)の運航再開及び旅客需要の早期回復を図る。	R3: 153・154 R2: 146
21	空港利用促進事業 (空港対策課)	173,767	159,274	△14,493	茨城空港ターミナルビルにおける旅客サービス事業費の減 △11,952	(事業の成果) レンタカーキャンペーンによる二次交通の充実、IBRマイエアポートクラブアプリの導入による空港利用者利便の向上など、利用促進の取組を通じて旅客需要を喚起した。 (今後の課題) 新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した旅客需要の早期回復を図る。	R3: 154 R2: 146
22	茨城空港発着遊覧飛行運航支援事業 (空港対策課)	-	1,996	1,996	遊覧飛行を運航する航空会社の運航支援事業の増(R3新規) 1,996	(事業の成果) 令和3年度は株式会社フジドリームエアラインズにより2回の遊覧飛行を実施した。 (今後の課題) 新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した旅客需要の早期回復を図る。	R3: 154 R2: -